

## 自社開発技術と高度IT技術で分析業務を高速化 付加価値サービスの提供により顧客に貢献

環境分析および環境調査事業を通して「社会の人々の快適な生活環境の保全に貢献する」ことを目的として設立。主な事業内容は、水質検査や土壌分析、大気測定、環境調査。また、法改正により今後需要が見込まれるアスベスト分析事業を今年から新たに展開。労働集約型の分析業界において、同社の強みは分析における自動化技術。これまでに分注機、細菌・大腸菌検査装置、BOD(生物化学的酸素要求量)分析装置など業界初の自動化を実現。2020年10月「地域未来牽引企業」に選定されている。

所在地	福岡県福岡市博多区金の隈2丁目2番31号	設立	1973年
電話/FAX	092-504-1220/092-504-1523	資本金	4,000万円
URL	http://www.taihei-esc.com	従業員数	67人
代表者	代表取締役 坂本 雅俊		



### 自動化と高度IT化による分析高速化と付加価値サービスの提供により顧客に貢献

分析工程の自動化により大量のサンプルを早く正確に分析することが可能となり、スピーディーで臨機応変な顧客サービスを展開。他の分析検体が多く立て込んだ状況でも、急ぎで分析結果を知りたいという顧客の要求に応えることを可能としている。特に水処理設備の管理等、長時間運転を止めることができない顧客からは大変喜ばれている。この他、分析管理システムに蓄積された分析項目ごとの過去データを分析技術者が簡単に比較参照できる仕組みを作ったことで、単に分析結果だけでなく水質の変化を付加価値として提供。



自動細菌検査装置

### 自動化技術の導入による作業時間の圧倒的な短縮

自動化技術の導入により作業時間が圧倒的に短縮された。手作業の場合は、2～3日かかるような水質検査も自動機であれば1日で結果が出る。有害物質などを検査する水道水質検査51項目に対しても、通常の1/5の3日に対応できる。また、これまで分析担当者が行っていた分析データの処理工程にRPA(ロボティクスプロセスオートメーション)を導入し、業務を効率化。さらに社員の作業時間短縮のみならず、顧客に短期間で納品することで、客先の業務効率化や資金回収を早めて経営を安定させることにも寄与している。



職場風景

### 新たな自動分析装置の開発や環境分析分野におけるDXの推進

今年度中にSDGsにも対応した自動分析装置(ノルマルヘキササン抽出物質分析)を開発。インターネットを利用した分析依頼や結果の閲覧がスピーディーに行えるサービスを提供する等、環境分析分野におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進。長崎大学工学部と水質調査用水上ドローンの共同開発も行っている。ドローンをGPSによって目標とする採水地点まで移動させ、海洋底層付近からも採水できる等、無人で安全かつ短時間で作業を行うことが可能となる。養殖施設への活用も見込まれている。



環境調査